



感性に触れる関わり

15年近く前、初めて海外へ転居することになり5歳の娘と生後3ヶ月の次女を連れて家族4人で長い飛行機の旅に出た時の話です。下の娘は、3時間おきに授乳が必要で、夜中にいつ泣き出すか分からないという状況でした。事前に航空会社にたずねてみると壁の前の席を用意して下さり、簡易ベッドも取り付けて下さるとのこと。その上、普段使っている紙おむつや粉ミルクの銘柄まで尋ねてくださるという徹底ぶりです。心強くまたありがたい思いがいたしました。当日、娘は、いつものように数時間おきに目を覚まし声をあげて泣きそうになります。その度に抱きかかえ、あやしては、またベッドに戻すという事を繰り返しておりました。狭い機内ですから周りにもかなり気を使いながらほとんど寝る事のできない夜を過ごしておりました。そして、夜中にいよいよ声をあげ始めたのです。ミルクを準備しなくてはと思い、抱き上げて左の腕から右の腕に抱き替えようとした丁度その時、私の右肘の下にスッと枕が差し入れられたのです。通路側を見ると客室乗務員の方が、「お疲れではございませんか。すぐにミルクの準備をいたしましょうね。」と数分後には人肌の温度に調整した哺乳瓶を持ってきて下さいました。その絶妙のタイミングと穏やかな心遣いに感動し、何てすばらしい感性をお持ちの方なのだろうと家内と二人で感動してしまいました。それからというもの私はことあるごとにその飛行機会社を利用するようになってしまったのですが、何かにハマってしまうという事にはそれなりのきっかけというものがあるようです。

感性の3要素というものがあると聞きました。まず、気付く事。次に感動する事。そして行動する事だそうです。高度に成長した社会において提供されるものはどれも大差はないかもしれませんが、はやる店とはやらない店があるというのは事実です。この違いは相手の感性に触れたかどうかで生じるものです。

教育や子育ての現場でも同じです。人が人を導く上ではこの感性に触れる関わりの有無が重要な境目となります。この夏、私たち大人が子供たちの感性に感動をもたらす程の関わりを持つ事ができるならば大きな成長が期待できるのではないのでしょうか。LOVE IS NOT RUDE 愛は無作法をしない

「ミッションリップ in 北浦」開催!



教団の青年部が毎年海外で行っている「海外ボランティア活動」の国内版を今年初めて計画する事になり第1回目として北浦三育中学校キャンパスを候補地とし

て選んで下さいました。7/17(木)~23(水)の期間十数名の高校生以上のボランティアメンバーがキャンパスに滞在してチャペルのペンキ塗り等のメンテナンス作業に協力下さる予定です。OBも多数ご参加下さるようです。感謝いたします。

2008年7月10日

校長 尾上 史郎